

伊勢市公共サイン計画

伊勢市

令和7年5月

第1章 総論

1-1	はじめに	1
1-2	公共サインの種類	2
1-3	適用範囲	3
1-4	課題	4
1-5	基本方針	5
1-6	優先整備方針	6

第2章 設置指針

2-1	設置の原則と計画手順	7
2-2	案内誘導システム	8
2-3	配置の考え方	9
2-4	表示板面の考え方	11
2-5	文字・ピクトグラムの考え方	15

第3章 管理指針

3-1	メンテナンスの考え方	20
3-2	管理台帳の活用	21

第4章 資料編

4-1	標準デザイン	22
4-2	ピクトグラム一覧	40

第 1 章 総 論

- 1-1 はじめに 1
- 1-2 公共サインの種類 2
- 1-3 適用範囲 3
- 1-4 課題 4
- 1-5 基本方針 5
- 1-6 優先整備方針 6

1-1 はじめに

計画の目的

伊勢市には、様々な公共サインが設置されています。これらの公共サインは、地域住民や来訪者を公共施設や観光地へ誘導する重要な役割を担うとともに、まちの景観を構成する重要な要素の一つとなっています。

伊勢市の既存の公共サインは、合併前の旧市町村が独自に設置をしてきたものであるため、表示情報やデザインが不統一であり、景観への配慮について十分とは言えない状況です。

伊勢市公共サイン計画は、このような状況を踏まえ、これまで整備してきた公共サインを基本として、地域住民や来訪者をわかりやすく案内・誘導するとともに、伊勢市景観計画に基づき良好な景観形成を図ることができるよう、公共サインを整備するための基本的な考え方やルール等を取りまとめたものです。

また、伊勢市の特色を活かした公共サインを計画することで、第63回神宮式年遷宮に向け伊勢市のブランドイメージが向上することを目指しています。

今後、公共サインを新たに設置する際や既存サインを更新する際には、伊勢市公共サイン計画に基づいたデザインとしていくこととします。



「伊勢市観光・案内サイン基本計画（1993年）」をもとに整備された 語り壁（左）、旧二見町の当時の筐体デザイン（中）、旧小俣町の当時の筐体デザイン（右）。

使い方

適切な「整備計画」・「製作」・「維持管理」に努めるためのガイドラインとします。

公共サインとは

伊勢市をはじめ、三重県や国、公的機関等が、案内誘導・利用案内・注意喚起・啓発などを目的に、道路や公園、河川などの公共施設に設置する屋外広告物をさします。

1-2 公共サインの種類

歩行者系サイン



案内サイン



誘導サイン



解説サイン



禁止・規制サイン



防災サイン



観光ルート
サイン

サイクリング
サイン

デジタル
サイネージ

公共サイン

車両系サイン



車両誘導サイン



施設周辺サイン (外構)



駐車・駐輪場サイン



禁止・規制・注意喚起サイン

施設名サイン

施設内サイン



案内サイン



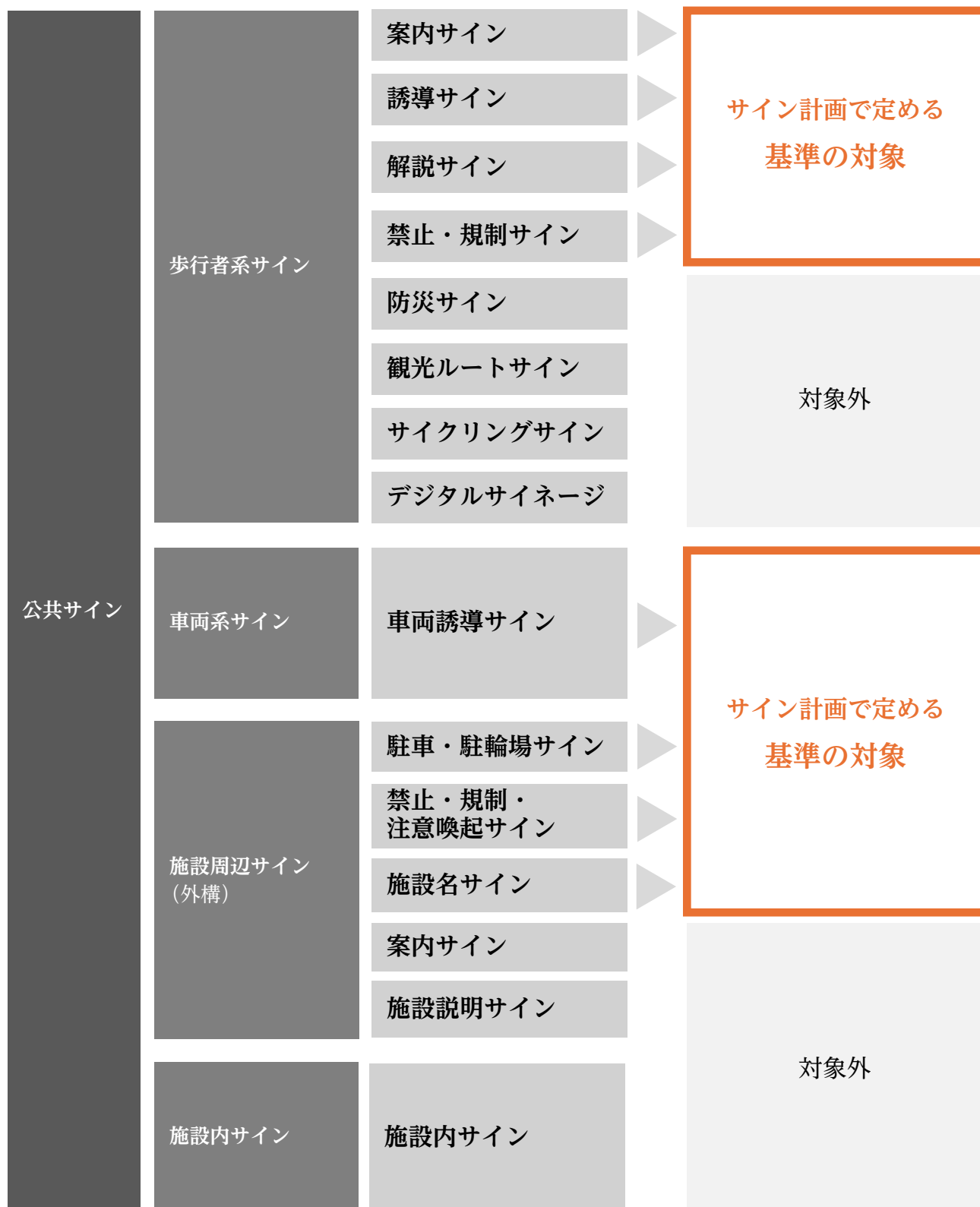
施設説明サイン



施設内サイン



1-3 適用範囲



※「サイン計画で定める基準の対象」とするタイプのサインが三重県、国、民間の場合は、規制とせず推奨や参考とします。

1-4 課題

【課題】

【対策】

デザインの不統一

- ・年代や担当課毎で筐体デザインや表示基準が異なる。

- ・標準デザインや表示基準の検討。
- ・多言語表記やピクトグラムを活用しユニバーサルデザインを検討。
- ・他媒体との連携の検討。

配置の不均衡

- ・神宮周辺とその他エリアで整備数の多寡に差がある。
- ・鉄道駅でもサイン整備状況に格差がある。

- ・利用実態や将来計画に合わせた整備計画の検討。
- ・誘導対象の整理など観光回遊性を考慮した配置や表示計画の検討。

経年劣化による視認性の低下

- ・自然素材を用いた筐体の老朽化やインクの退色などにより、視認性が低下しているものがある。
- ・雑草等でサイン自体が隠れている。

- ・更新や経年劣化に強い仕様の検討。
- ・清掃やチェックのルールづくり。

維持管理の体制

- ・各課が行う整備状況について、一元的に把握しきれていない。

- ・台帳等管理フォーマット設定。
- ・整備計画の共有など、管理体制づくり。
- ・効率的な情報更新の仕組みづくり。

1-5 基本方針

生成りの景観に調和するデザイン

伊勢市の歴史景観、自然景観に配慮した統一性のあるデザインとします。
また、適切な維持管理を行うことで、サインの老朽化による景観阻害を防ぎます。

「生成り」とは、
神宮の建築素材の使われ方に象徴される、素材自体が持つ美しさのありのままで純粋な状態で都市マスタープランや景観計画にも理念として掲げられる、伊勢市を象徴するテーマです。

誰にでもわかりやすい情報提供

歴史に配慮しながらも、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、適切な配置や表現、また多言語表記やピクトグラム、QRコード活用によって、誰にとっても分かりやすい情報提供を行います。

1-6 優先整備方針

以下のような視点で優先整備することで、効果的に景観性や利便性を向上させます。

① 外宮内宮の景観に調和するサイン整備

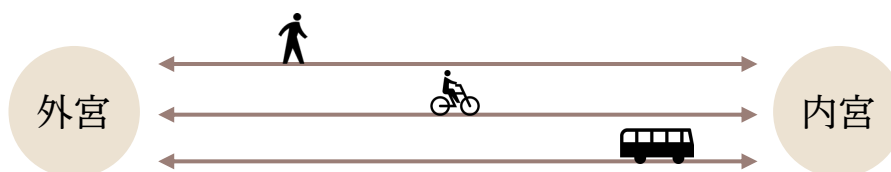
派手な見た目や老朽化、乱立等の景観阻害サインを統一デザインに改修することで、神宮に相応しい景観づくりを行います。



内宮前駐車場の改修イメージ。派手な色彩から景観に配慮した色彩に変更し景観性を向上させる。

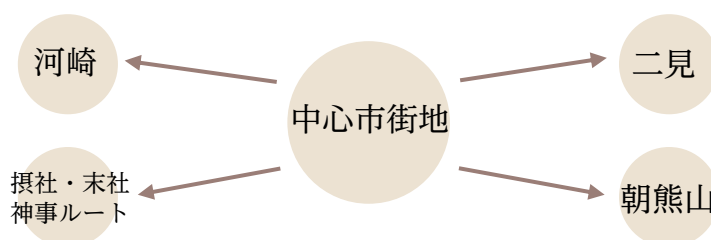
② 外宮内宮間をスムーズに回遊させるサイン整備

御木本道路、伊勢古市参宮街道、御幸道路等の参拝の経路となる道に対して、さまざまな交通手段の利用者を想定したサイン計画を行うことで、回遊の利便性を向上させます。



③ 外宮内宮以外へスムーズに回遊させるサイン整備

二見や河崎、朝熊山、また神宮の摂社末社や神事のルート等に着目したサイン計画を行い魅力を伝えることで、観光価値をより深いものに向上させます。



第 2 章 設置指針

2-1 設置の原則と計画手順 7

2-2 案内誘導システム 8

2-3 配置の考え方 9

1. 有効な配置
2. 配置位置と向き
3. 設置高さ

2-4 表示板面の考え方 11

1. 形状
2. 地色と文字色
3. 地色と図色の明度差
4. 素材

2-5 文字・ピクトグラム of 考え方 14

1. 多言語表記
2. 書体
3. 文字サイズ
4. 表記の精査
5. ピクトグラム使用
6. 文字組み
7. 地図の掲載範囲

2-1 設置の原則と計画手順

□ 必要性を検討する

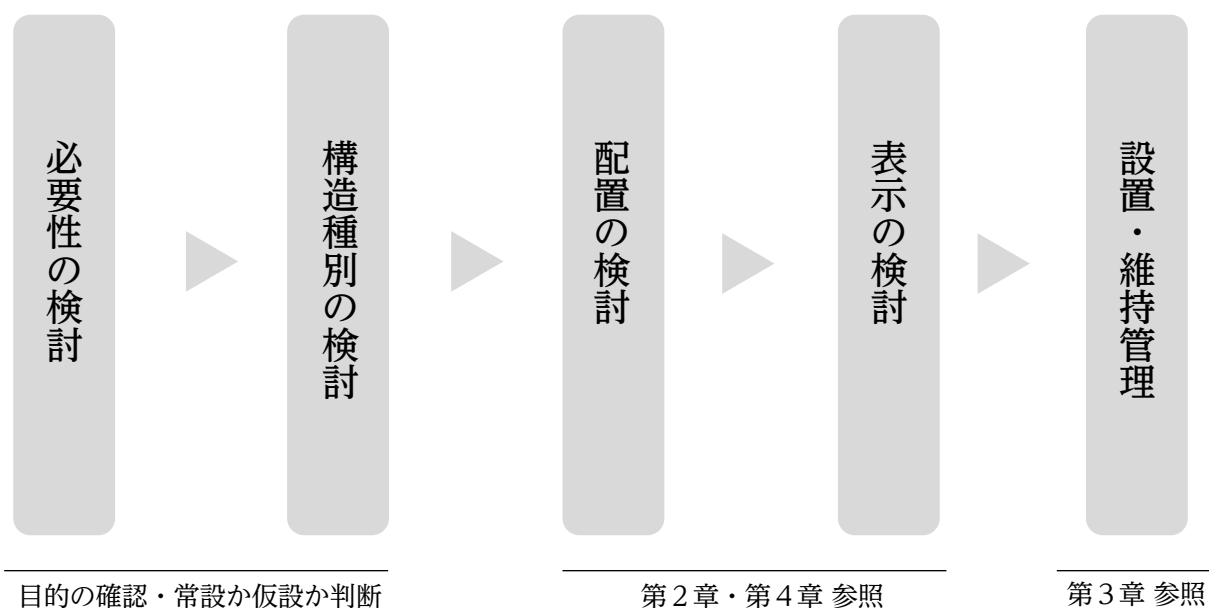
設置にあたって効果や必要性を十分検討します。サイン設置以外の方法も検討し、不要なサインは設置しないものとします。

□ 常設サインを基本とする

公共サインは、良好な景観形成と維持管理の観点から、耐久性のある常設サインを計画的に設置することを基本とします。

仮設サインは、局所的かつ緊急を要する問題や事象に対処する場合のみ一定期間に限り設置できるものとします。

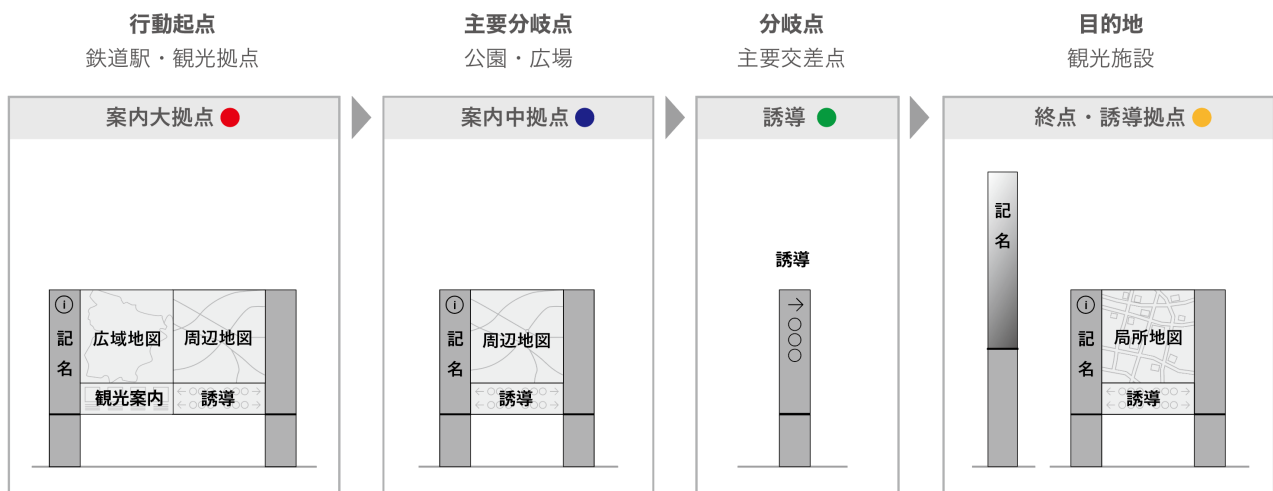
■ 計画手順



2-2 案内誘導システム

- 地図や方面誘導の表示を連続させるようにサインを配置します。
- 駅などの行動起点、途中経路、観光エリア等目的地など、場所に合わせた過不足の無い情報掲出を行います。

情報提供の流れ



案内・誘導拠点の配置と動線のイメージ

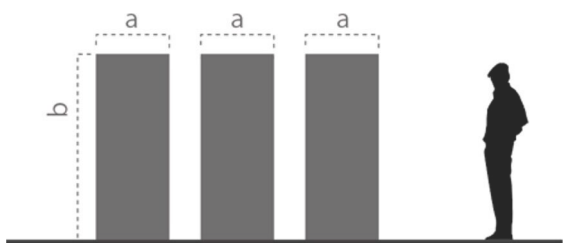


2-3 配置の考え方

1. 有効な配置

- 景観調和や建築物等と一体化するようサインを設置を図ります。
- 人の動線や目線の高さを意識し、最も効果的な位置に設置することで、必要最小限の表示面（サイズ）とします。
- 複数のサインを設置する際は、景観や情報の読み取りやすさに配慮した設置方法を検討します。

整列させる・サイズを揃える



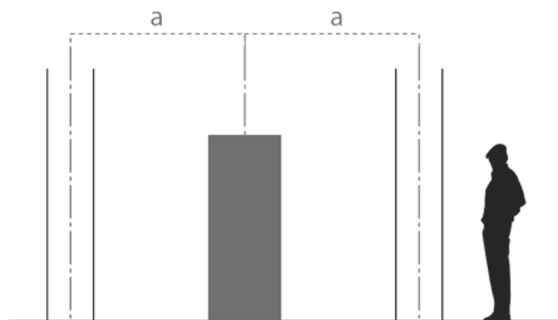
整頓された同一形状により一体のサインとして認識できます。

サイズが異なる場合は高さを揃える



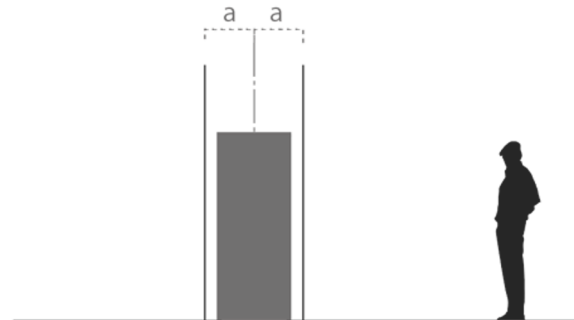
高さが揃うことで一体のサインとして認識できます。

柱間の中心に合わせる



柱間の中心に納めることで整然とした印象を与えることができます。

柱の中心に合わせる



柱に綺麗に納めることで建築デザインを損ねません。

様々なサインが近接して乱立している場合、情報を集約する

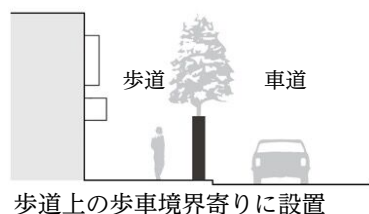


複数のサインを集約することで、情報が伝わりやすくなります。

2. 設置位置と向き

- 通行者の妨げとなる動線上への設置は避け、一見してサインの存在が分かる位置に設置します。
- 街路樹やその他の工作物等との位置関係に留意し、視認性を損なわないよう設置します。
- 夜間の視認性や判読性を向上させるため、基本的な設置位置に配慮した上で、街路灯の側に設置する等の工夫を行います。

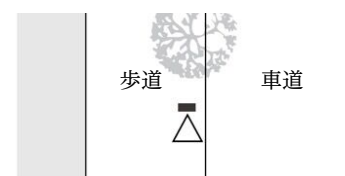
【道路上における配置位置】



【板面が大きいサインの向き】



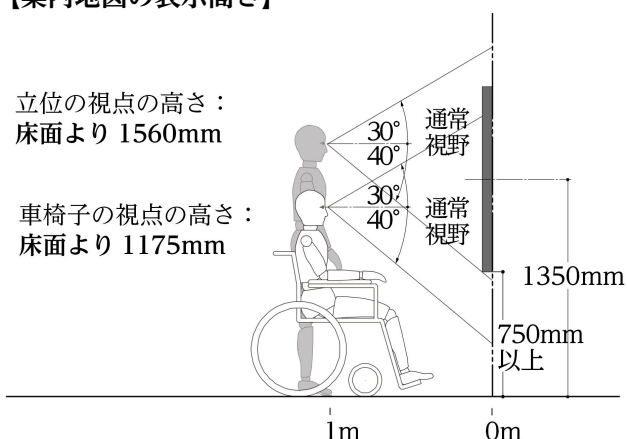
【板面が小さいサインの向き】



3. 設置高さ

- 案内サインは、車いす利用者と立位の利用者双方が見やすい高さとしします。
- 表示面の中心は「地上から1350mm」を基本とします。
- 車いす利用者が近づいて見ることを考慮し、案内地図の下端は地盤面より750mm以上の高さに配置することを推奨します。

【案内地図の表示高さ】

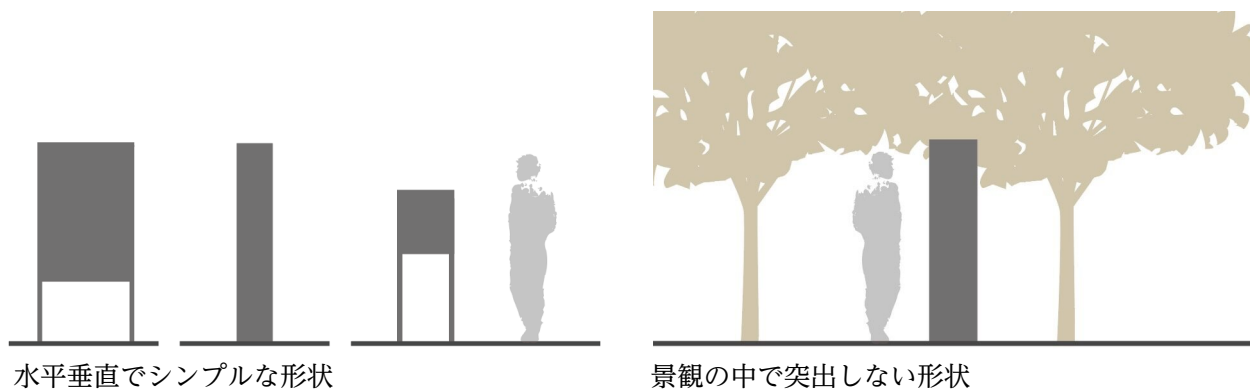


出典：
「公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン」
(令和6年3月 国土交通省)

2-4 表示板面の考え方

1. 形状

- シンプルな形状とし、過度な装飾を行わず、周辺景観との調和を図ります。
- 空間の性質やサインの大きさによっては、景観と調和しつつ良質なアクセントとなるデザインを検討します。



2. 地色と文字色の設定

- 地色は、伊勢市景観計画に準拠し、ダークブラウン（10YR 2.0 / 1.0）を基準色とします。
- 文字色は、無彩色（白～黒色）を基本とします。紫外線や雨風などの自然環境は退色を引き起こします。色彩を検討する際は、自然環境による退色を考慮します。
- 建築物のデザインに配慮する必要がある場合等には、情報伝達機能や景観に配慮した上で、他の色や素材を用いることができます。

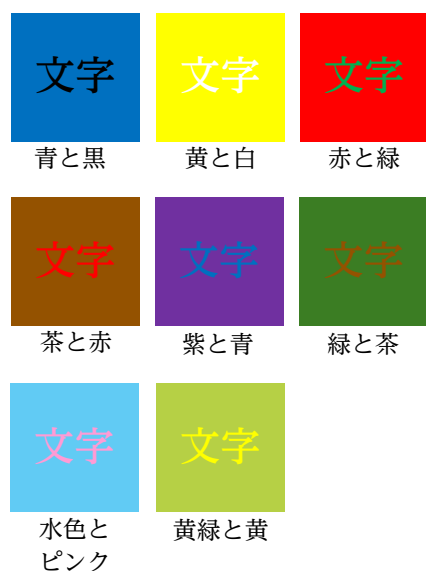


ダークブラウン
10YR 2.0 / 1.0（マンセル値）

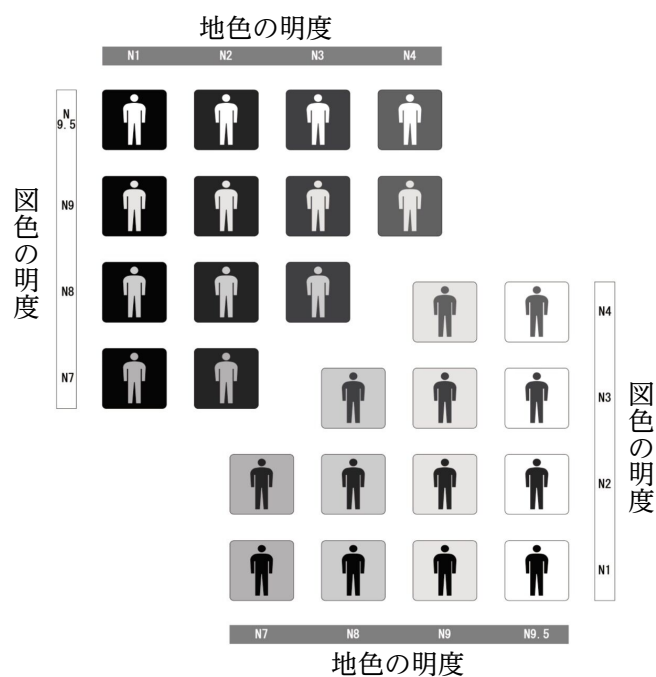
3. 地色と図色の明度差

- 色彩を検討する際は、景観への調和と色覚多様性に配慮した配色とします。
- 視認性を確保するため、明度差（コントラスト）を確保した配色とします。
※明度スケールで5段階以上の明度差が必要
- 地色とのコントラストが十分に確保できない場合は、白色で縁取るなど明度差の確保に努めます。

✕ 見分けにくい色の例



【明度差を確保した地色と図色の対比例】



出典：「公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン」（令和6年3月 国土交通省）



赤色と地色が
見分けにくい



コントラストが確保され、
認識しやすい

4. 素材

■ 本体の素材は、維持管理に優れた耐久性のあるものを使用します。

筐体部（下地となるフレーム）、サイン基材（印刷やシートを貼り付ける板面）

- 耐久性向上のために亜鉛溶射若しくは溶融亜鉛メッキ等の防食処理を施し、さらに塗装も高耐候性の仕上げを基本とします。
- 重要性の高いサインは、より防食性かつ高耐候性のあるステンレスフレック入り塗料等の使用を検討します。
- SUS（ステンレス鋼）や石材や防腐処理した木材等耐候性のある素材の使用を検討します。

【溶融亜鉛メッキに塗装した時の耐用年数（単位：年）】

参照：日本溶融亜鉛鍍金協会資料

※中心市街地では田園地帯、
沿岸部では海洋地帯の数値を参考にする。

亜鉛付着量	g/m ²	107～229	305～488
田園地帯	メッキのみ	4～15	18～37
	2重防食	10～25	35～50
海洋地帯	メッキのみ	2～11	13～28
	2重防食	7～24	25～46
工業地帯	メッキのみ	1～4	5～6
	2重防食	5～15	12～30

サイン部（印刷面）

- 案内図等の更新性の高いサインは将来的な張り替えやメンテナンスを考慮し、高耐候性のインクジェットシートを基本とします。
- 解説サインには、すでに整備実績があり高耐候性の「メタルフォト」を使用する場合があります。

【印刷方法の比較（単位：年）】

印刷方法	カッティング	高耐候性インクジェット印刷	シルク印刷※1
耐用年数※2	5～7	5～10（10～20）※3	5（10～20）※3
メリット	・様々な種類のシートがある ・部分的な貼り替えが可能	・細かい文字や写真などの高解像度の印刷が可能	・素材の良さを活かした質の高いサインが可能 ・どんな素材にも印刷可能
デメリット	細かい表示の製作が困難	部分的な修正ができない	版が必要なため多色印刷は高価
用途	単色の情報掲出	案内サイン	施設銘板等単色の情報掲出※4

※1：代替法として、製版を必要とせず耐候性のあるUVダイレクト印刷がある。

※2：耐用年数は環境によって大きく左右されるため、数値はあくまで目安である。

※3：特殊コーティングにより耐候性が増し、耐用年数延長、落書きや傷にも対応可能。

※4：上記以外に施設銘板に適した方法として耐久性と意匠性に優れたエッチングがある。

2-5 文字・ピクトグラムの考え方

1. 多言語表記

- 原則2ヵ国語表記（日本語・英語）とします。
- 表示板サイズの制約等で表記が困難な場合、日本語表記のみとすることができます。
- 日本語・英語以外の言語掲出が必要なサインは、多言語表記説明文を掲載したHPアドレスをQRコードで表示することを検討します。
- ただし、地図内のピクトグラム等の凡例表示は、多言語表記を検討します。

- 緊急的に設置する仮設サインは、多言語表記を必須としません。
- 駅前広場に設置するサインは、公共交通機関との整合を図るため、日本語と英語以外の言語掲出の必要性を検討します。
- その他の地域においても、特性を勘案し日本語と英語以外の言語を掲出することができます。ただし、表示の視認性を考慮するものとします。

2. 書体

- 視認性や判読性を考慮して設計されたUD（ユニバーサルデザイン）書体を使用します。
- 基準書体は以下のとおりとします。以下の書体がない場合は視認性や判読性を考慮し、類似のフォントを使用します。
- 伊勢らしさの表現として明朝体の使用を基本とします。ただし文字サイズが小さく情報が複雑になる地図中では視認性の高いゴシック体を使用します。

基準書体

明朝体

日本語：UD黎ミン

伊勢神宮 内宮 外宮
あいうえおかきくけこ
アイウエオカキクケコ

英語：Garamond

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789

ゴシック体

日本語：ヒラギノUD角ゴ

伊勢神宮 内宮 外宮
あいうえおかきくけこ
アイウエオカキクケコ

英語：Frutiger Next

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789

3. 文字サイズ

- 高齢者や弱視者等にも配慮した、誰にでも判読しやすい視認距離に応じた文字サイズとします。
- 案内地図の文字サイズ設定については、表示内容に合わせ適宜文字サイズを変えて表記します。
- サインを設置する前に、想定される視距離から判読性の検証を行います。

【視認距離に応じた文字サイズの目安】

視認距離	和文文字高	英文文字高
1～2mの場合	9mm以上	7mm以上
4～5mの場合	20mm以上	15mm以上
10mの場合	40mm以上	30mm以上
20mの場合	80mm以上	60mm以上
30mの場合	120mm以上	90mm以上

出典：「公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン」（令和6年3月 国土交通省）

4. 表記の精査

- サインに記載する施設名は、日本語・英語 表記方法を精査し正確かつ伝わりやすい表現とします。

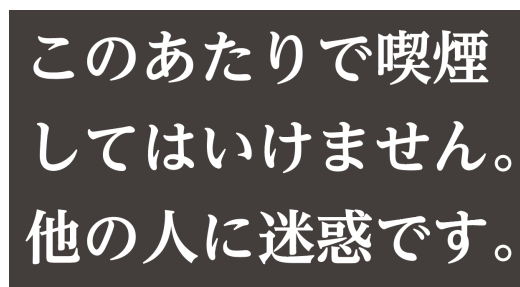
【庁内で協議して表現を設定した例】

日本語	英語
伊勢神宮 内宮	Ise Jingu Naiku
伊勢神宮（内宮）	Ise Jingu （Naiku）
内宮	Naiku, the Inner Shrine

設定

5. ピクトグラム使用

- 該当するピクトグラムがある場合は、すべてのサインで使用することを基本とします。
- ピクトグラムを利用し、直感的な情報伝達に努めます。
- ピクトグラムと組み合わせる文字情報は端的でわかりやすい表現とします。



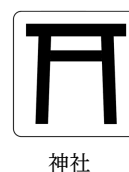
- ・ピクトグラムで直感的に伝える。
- ・文章で補完的に伝える。
- ・場合によっては、図を表示し状況を正確に伝える。

- 標準案内用図記号（大部分がJIS規格化）及びJISのピクトグラムの使用を原則とします。
- 独自にピクトグラムを作成する必要がある場合は、標準案内用図記号のイメージを尊重したデザインとします。
- 類似のピクトグラムは安易に作成・使用しません。

【ピクトグラム例（標準案内用図記号/JIS）】



【独自ピクトグラム例】

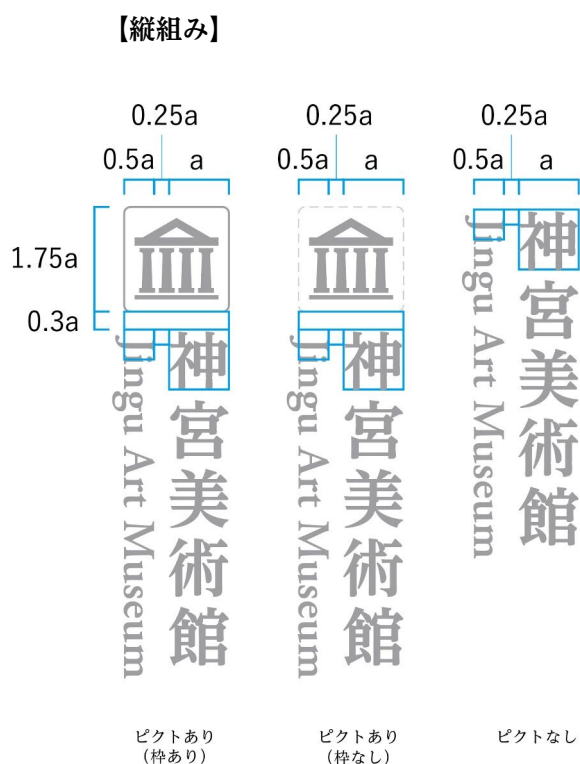


「神社」の標準案内用図記号が無いため独自ピクトグラムを作成し使用する。

出典：「標準案内用記号ガイドライン2021」
(2021年8月（公財）交通エコロジー・モビリティ財団)

6. 文字組み

- 日本語文字高を a としたとき、英語文字高 が $0.5a$ を目安とします。
- ただし地図内に掲載する地名など、日本語の表示サイズが小さい場合には、英語の表示サイズは可読性を考慮したサイズ設定とします。



- ・誘導サイン
- ・施設記名サイン
- ・案内サインの記名部分
- ・解説サイン
- 等で使用。



- ・案内サインの誘導・地図部分
- ・車両誘導サイン
- 等で使用。

※ 使い分けについては、第4章の「標準デザイン」の図参照。

7. 地図の掲載範囲

■ 3種類の地図を活用し、観光地周知や都市構造の理解の手助けを行います。



広域地図

・市域を示し、多様な観光地の存在を伝える地図

サイズ：900 × 900 mm

掲載範囲：約 20 km四方

縮尺：約 1/10000



周辺地図

・外宮内宮エリアの主要観光地の配置を伝える地図

サイズ：900 × 900 mm

掲載範囲：約 5 km四方

縮尺：約 1/4000



エリア周辺図

・各エリア内の観光施設の詳細配置を伝える地図

サイズ：900 × 900 mm

掲載範囲：約 1 km四方

縮尺：約 1/1000

おはらい町、外宮参道、河崎、二見等で活用を想定

※図はイメージ

第 3 章 管理指針

3-1 メンテナンスの考え方 20

1. 筐体のメンテナンス

2. 情報のメンテナンス

3-2 管理台帳の活用 21

3-1 メンテナンスの考え方

1. 筐体のメンテナンス

- 定期的に清掃・保守点検・修繕を行い、街の美観を守ります。

清掃等

- 植栽帯にサインを設置した場合、植栽の定期的な剪定を行います。
- 関係のない貼り紙は除去し表面を清掃します。
- 利用者が手に触れて使用する触知案内サイン等については、定期的に清掃を行います。

保守点検・修繕

- 傷やガタツキ、腐食・退色等の劣化や破損を確認した場合は、速やかに対応します。
- 傷等による塗装のはがれなどは、部分的に塗装補修します。

2. 情報のメンテナンス

- 設置者及び管理者は、適宜情報更新を行い、不要な情報は削除するものとします。

部分的なメンテナンス

- 案内サイン等の地図情報や施設名称等の変更がある場合は、速やかに表示内容を修正します。

全体的なメンテナンス

- サインの表示面は劣化の状態を考慮したうえで、10年を目途に更新します。
- 経年等による表示面の退色や、部分的な修正箇所が多数あるものは、新たな情報を追加する際などに表示面全体の取り替えを検討します。
- 更新の際は、本計画で定める標準デザインのサインを設置し、デザインの統一化を進めます。

3-2 管理台帳の活用

- 適切な維持管理を行うために管理台帳を設け、必要な項目を記録します。
- 台帳を活用し、更新等の履歴を記録することで、サインの維持管理の状況を把握します。

台帳例

公共サイン管理台帳（案）

サイン名	
管理番号	
管理課名	

設置年月日		施工業者	
設置課		施工業者 連絡先	
土地所有者		設置金額	
サイン種類		QRコード有無（貼付日）	
常設 / 仮設		仮設期間	
設置住所			
設置場所 （地図・写真） （住宅地図の頁）			
サイン写真			サイズ
			本体：
			表示：
			仕様
			本体：
			表示：
			照明の有無
点検・補修履歴	年月日	実施内容	撤去・更新の必要性
備考 （参考文献）			

第 4 章 資料編

4-1 標準デザイン 22

1. 案内サイン
2. 誘導サイン
3. 解説サイン
4. 禁止・規制サイン
5. 車両誘導サイン
6. 駐車・駐輪場サイン
7. 施設記名サイン

4-2 ピクトグラム一覧 40

1. JISピクト

4-1 標準デザイン

1. 案内サイン

石柱2連（表）

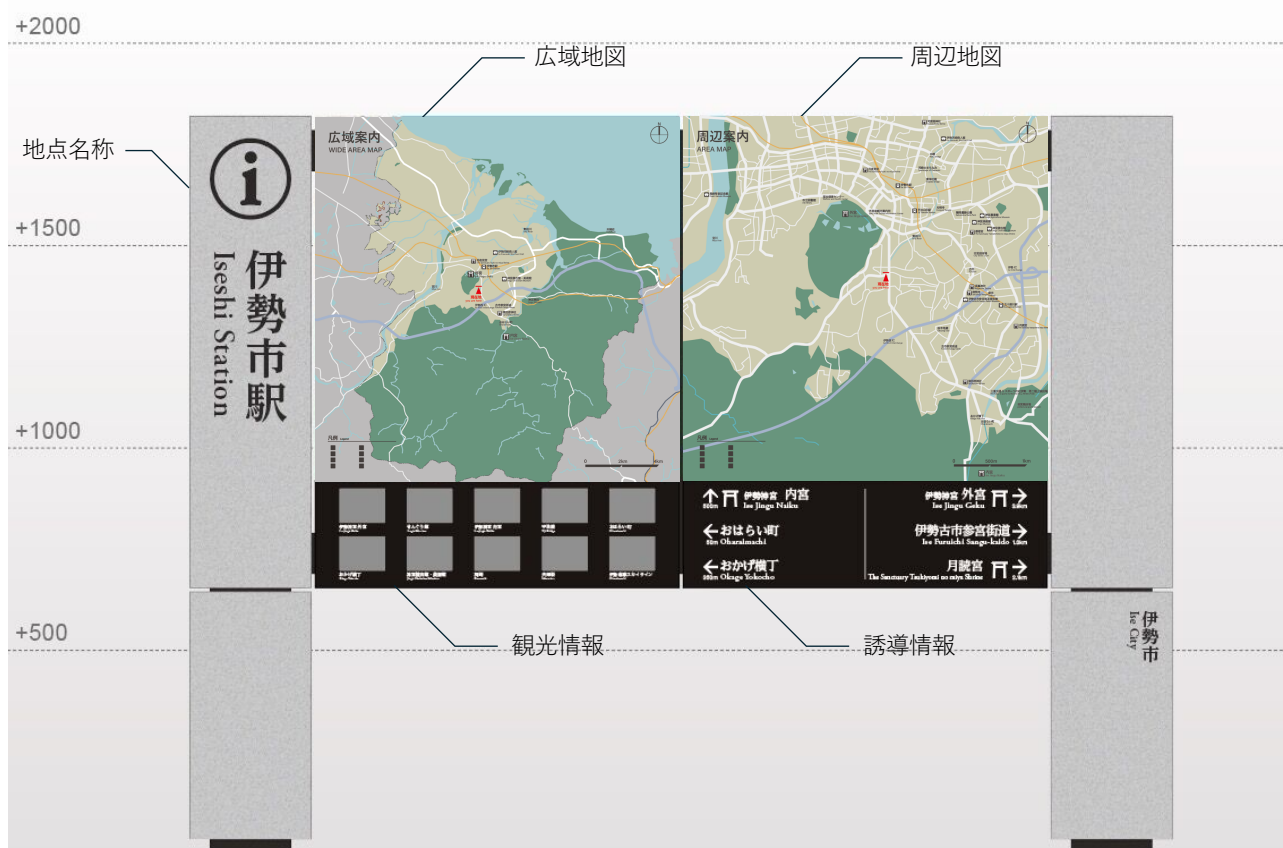
仕様

表示板（表）：アルミ板加工インクジェット印刷シート

表示板（裏）：アルミ板 加工指定色焼付塗装 シート切文字

支柱カバー：御影石ビシャン仕上げ 彫り文字色差し

支柱：鋼材指定色焼付塗装



1. 案内サイン

石柱2連（裏）



■ 表記は、2ヶ国語とします。

■ 板面地色は、ダークブラウン（10YR 2.0 / 1.0）とします。

1. 案内サイン

木柱2連（表）

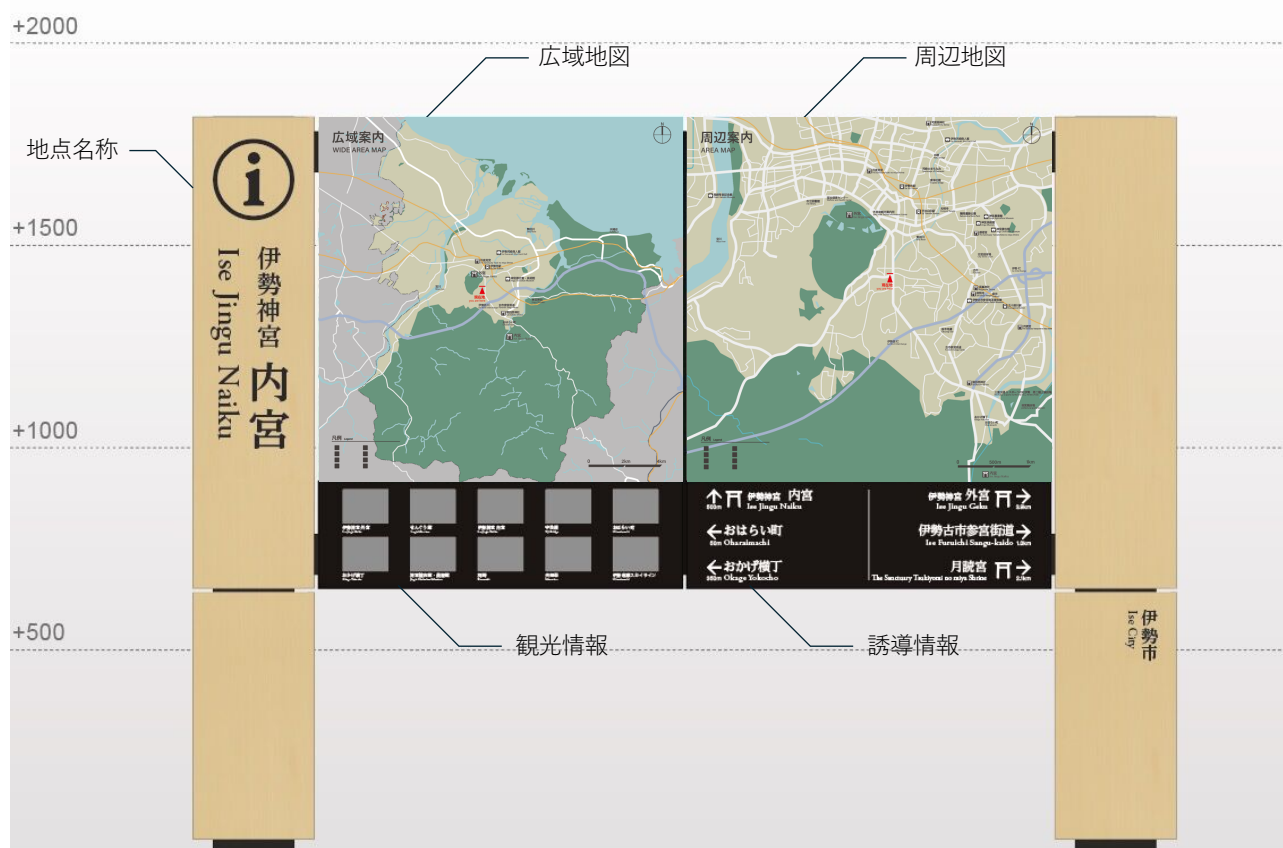
仕様

表示板（表）：アルミ板加工インクジェット印刷シート

表示板（裏）：アルミ板加工指定色焼付塗装 シート切文字

支柱カバー：木材 彫り文字色差し

支柱：鋼材指定色焼付塗装



1. 案内サイン

木柱2連（裏）



1. 案内サイン

石柱1連（表）

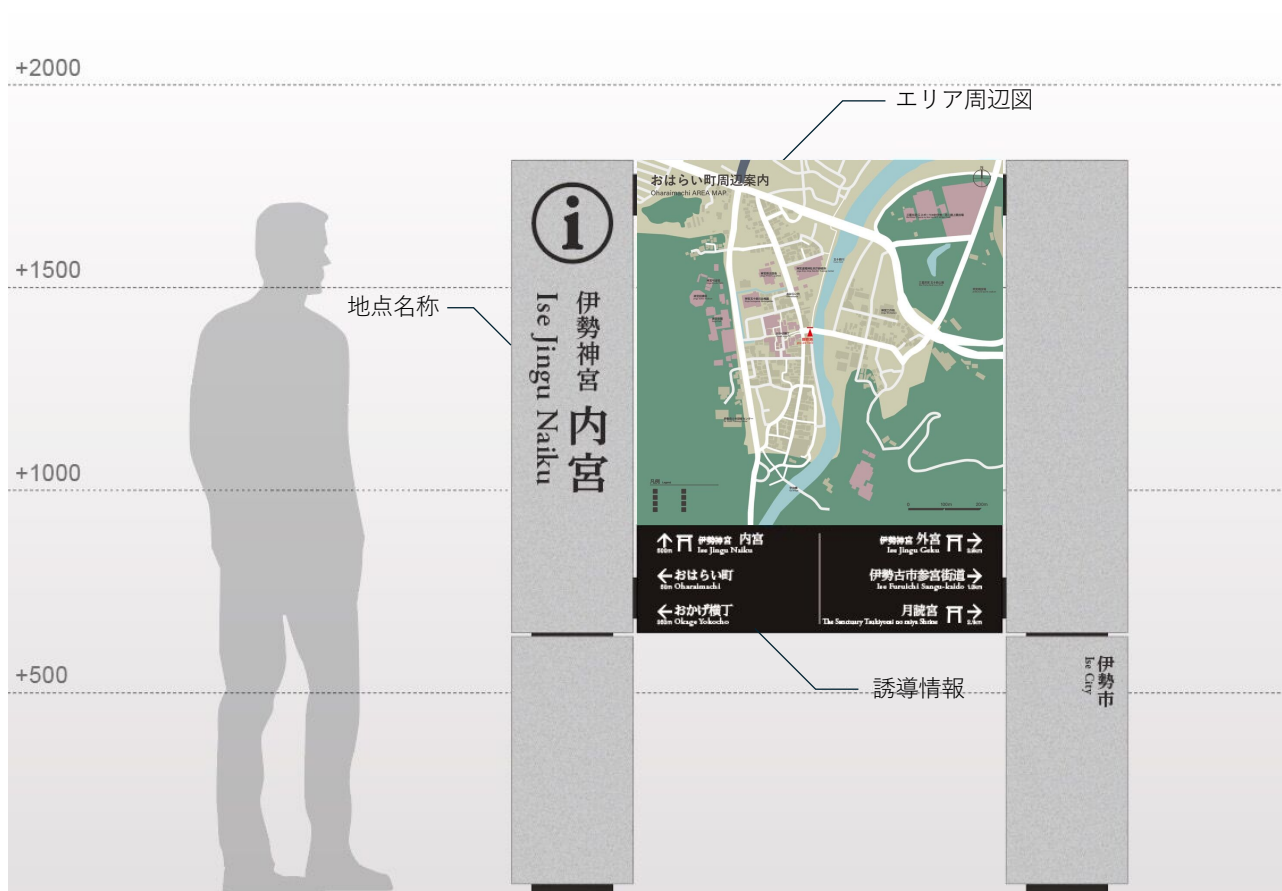
仕様

表示板（表）：アルミ板加工インクジェット印刷シート

表示板（裏）：アルミ板加工指定色焼付塗装 シート切文字

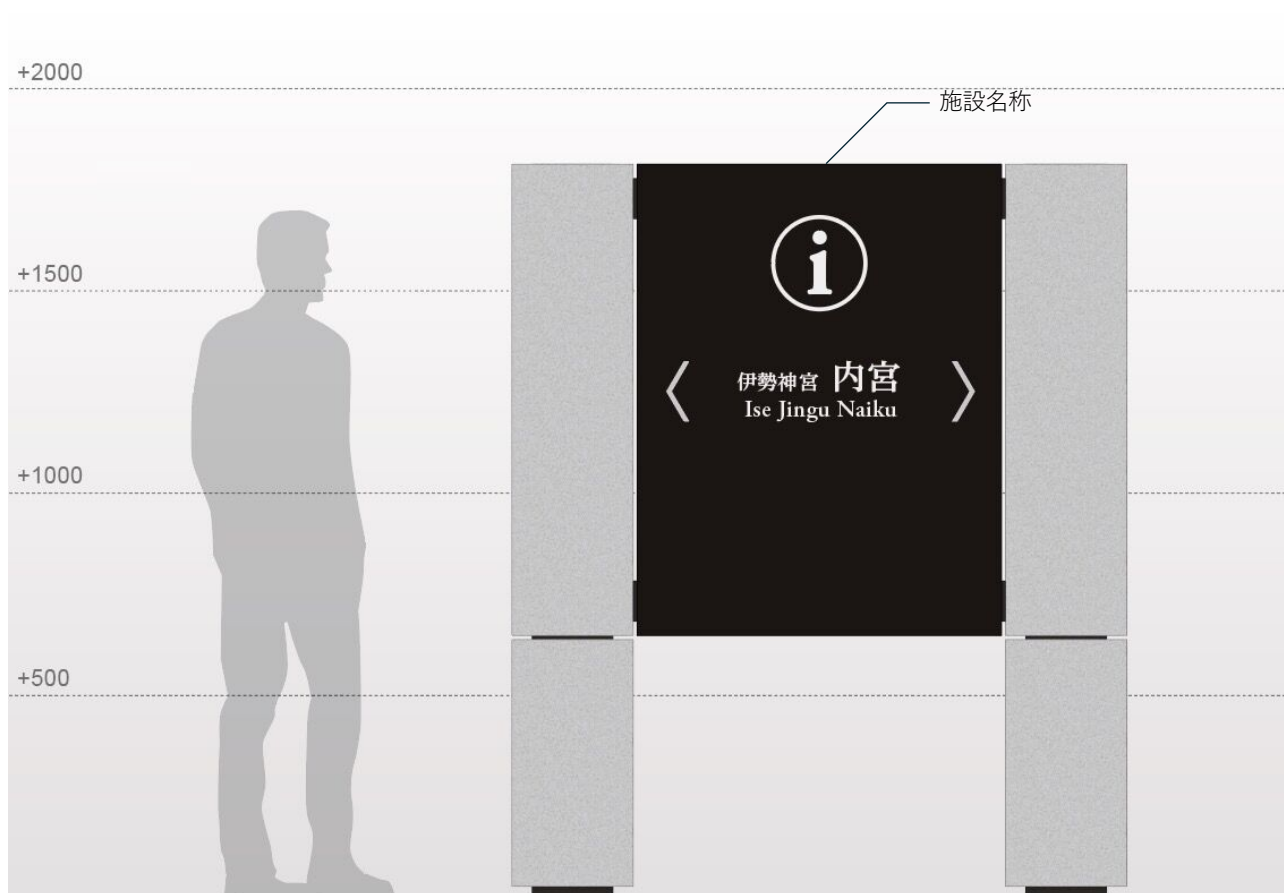
支柱カバー：御影石ビション仕上げ 彫り文字色差し

支柱：鋼材指定色焼付塗装



1. 案内サイン

石柱1連（裏）



1. 案内サイン

木柱1連（表）

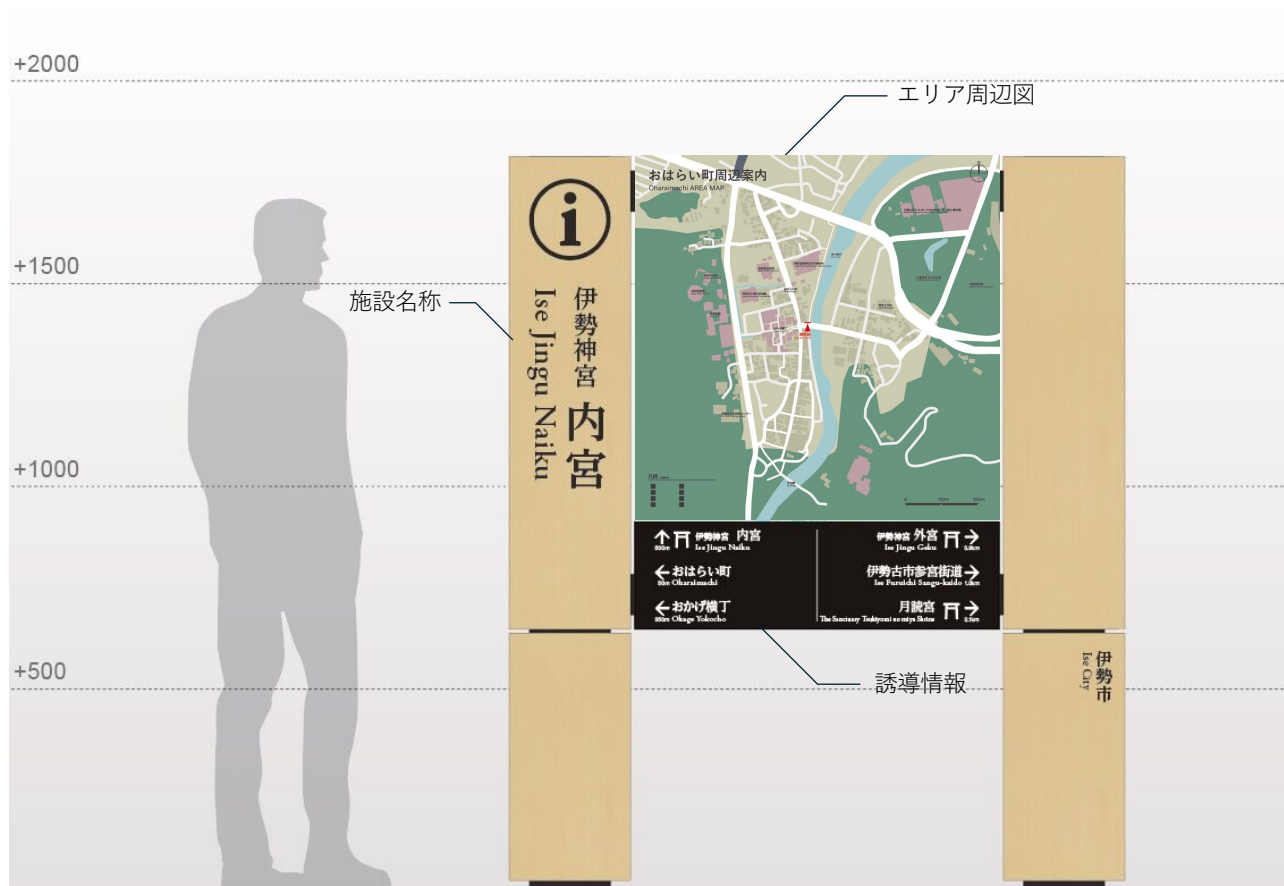
仕様

表示板（表）：アルミ板加工インクジェット印刷シート

表示板（裏）：アルミ板加工指定色焼付塗装 シート切文字

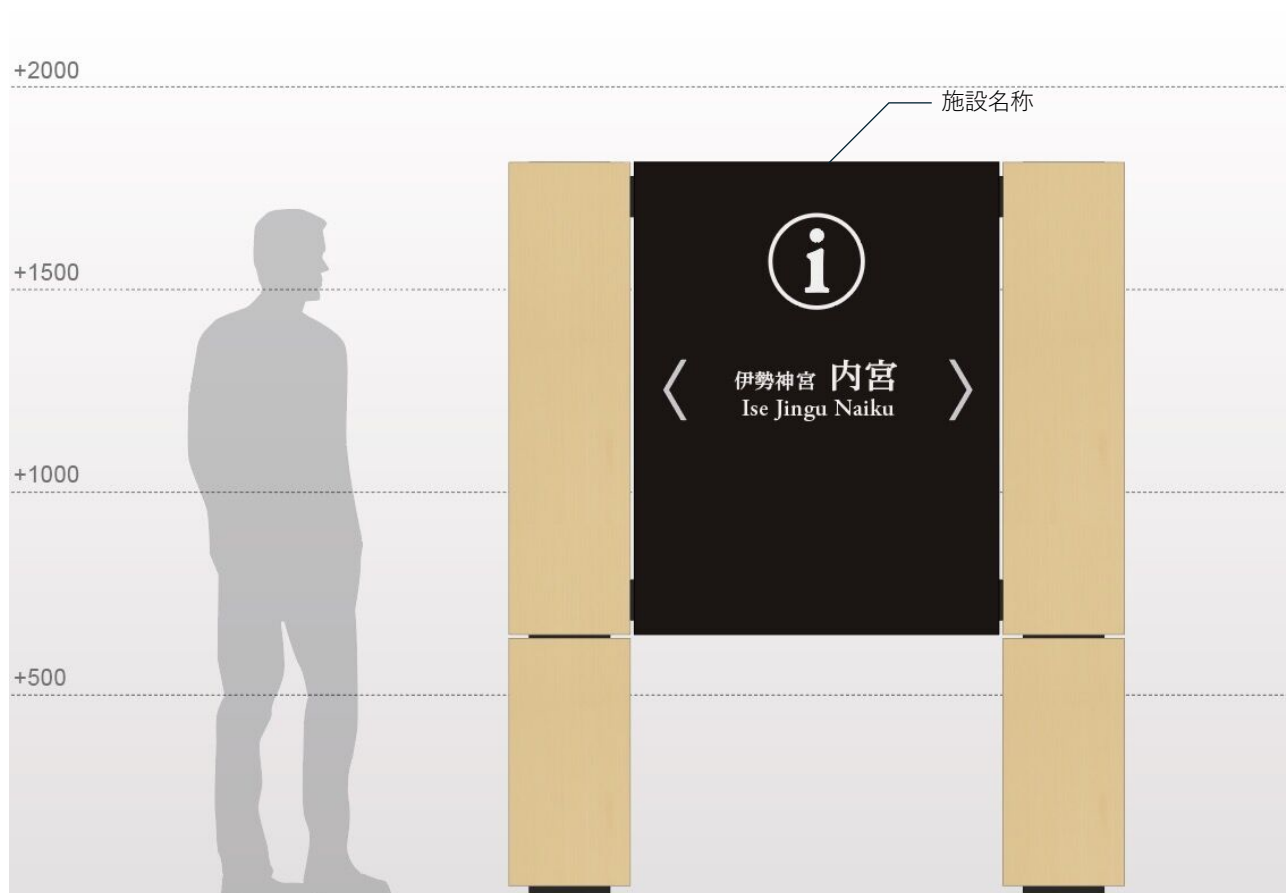
支柱カバー：木材 彫り文字色差し

支柱：鋼材指定色焼付塗装



1. 案内サイン

木柱1連（裏）



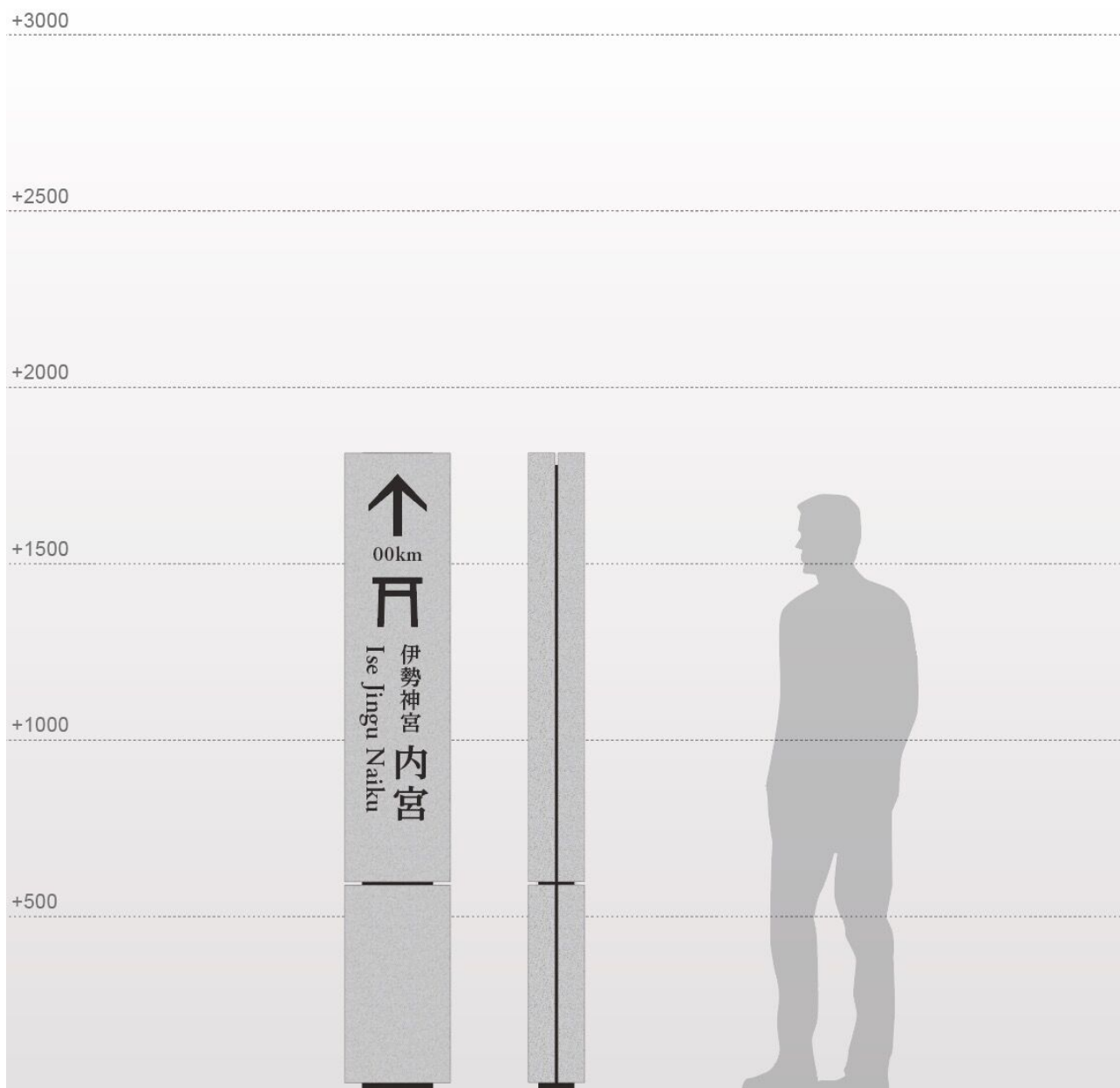
2. 誘導サイン

標準型

仕様

支柱カバー：御影石ビシャン仕上げ 彫り文字色差し

支柱：鋼材指定色焼付塗装



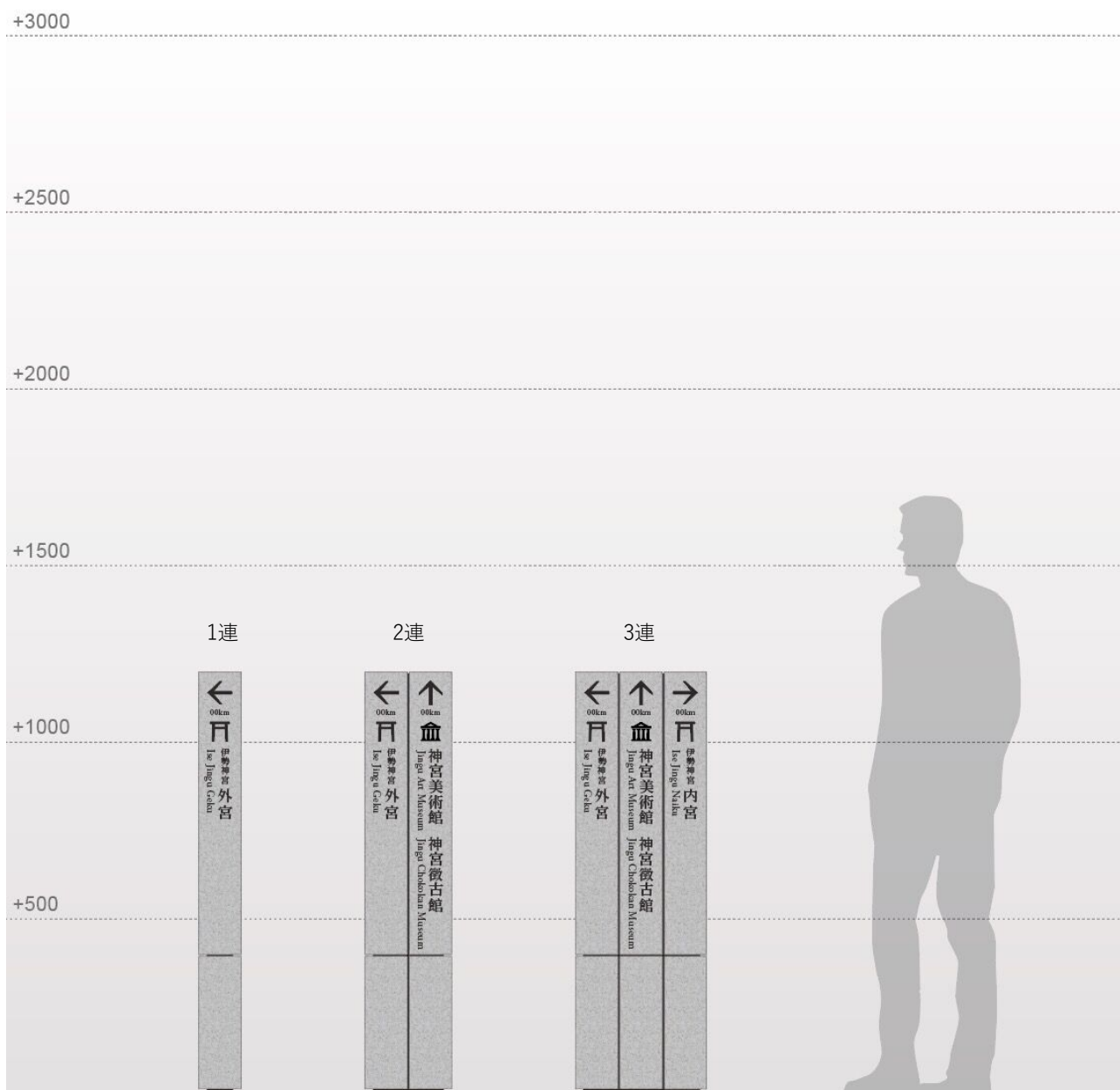
2. 誘導サイン

省スペース・多方面誘導型

仕様

支柱カバー：御影石ビシャン仕上げ 彫り文字色差し

支柱：鋼材指定色焼付塗装



3. 解説サイン

一般型の標準表示デザイン

【メタルフォトの活用】

左図のほか、耐候性に優れ既に整備実績もある「メタルフォト」による整備をを行う場合もあります。

+3000

+2500

+2000

+1500

+1000

+500



3. 解説サイン

歴史解説筐体の標準表示デザイン

【メタルフォトの活用】

左図のほか、耐候性に優れ既に整備実績もある「メタルフォト」による整備をを行う場合があります。

+3000

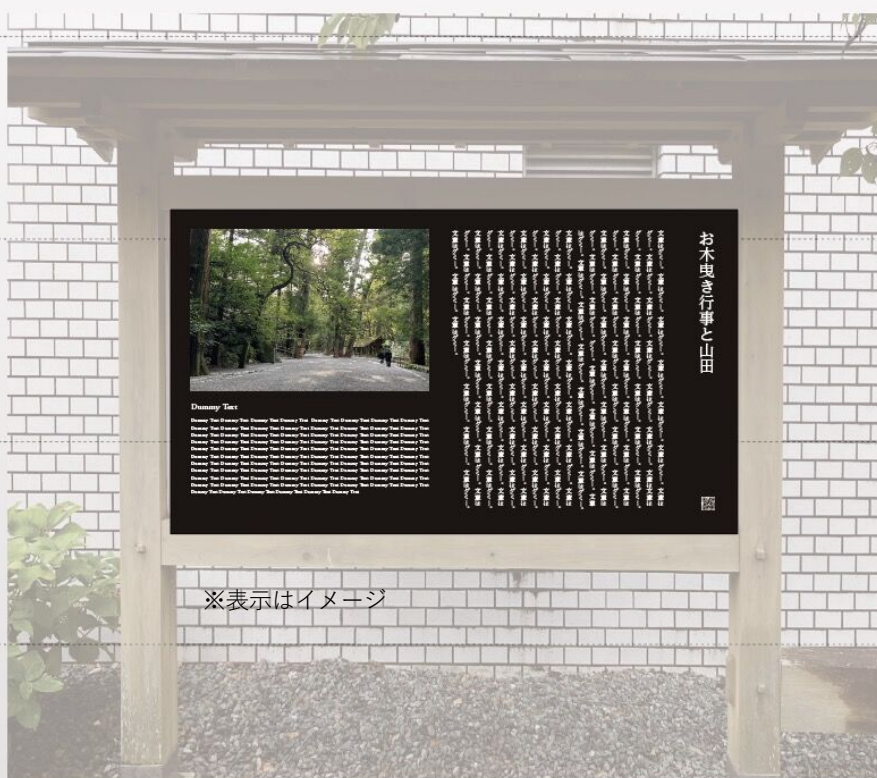
+2500

+2000

+1500

+1000

+500



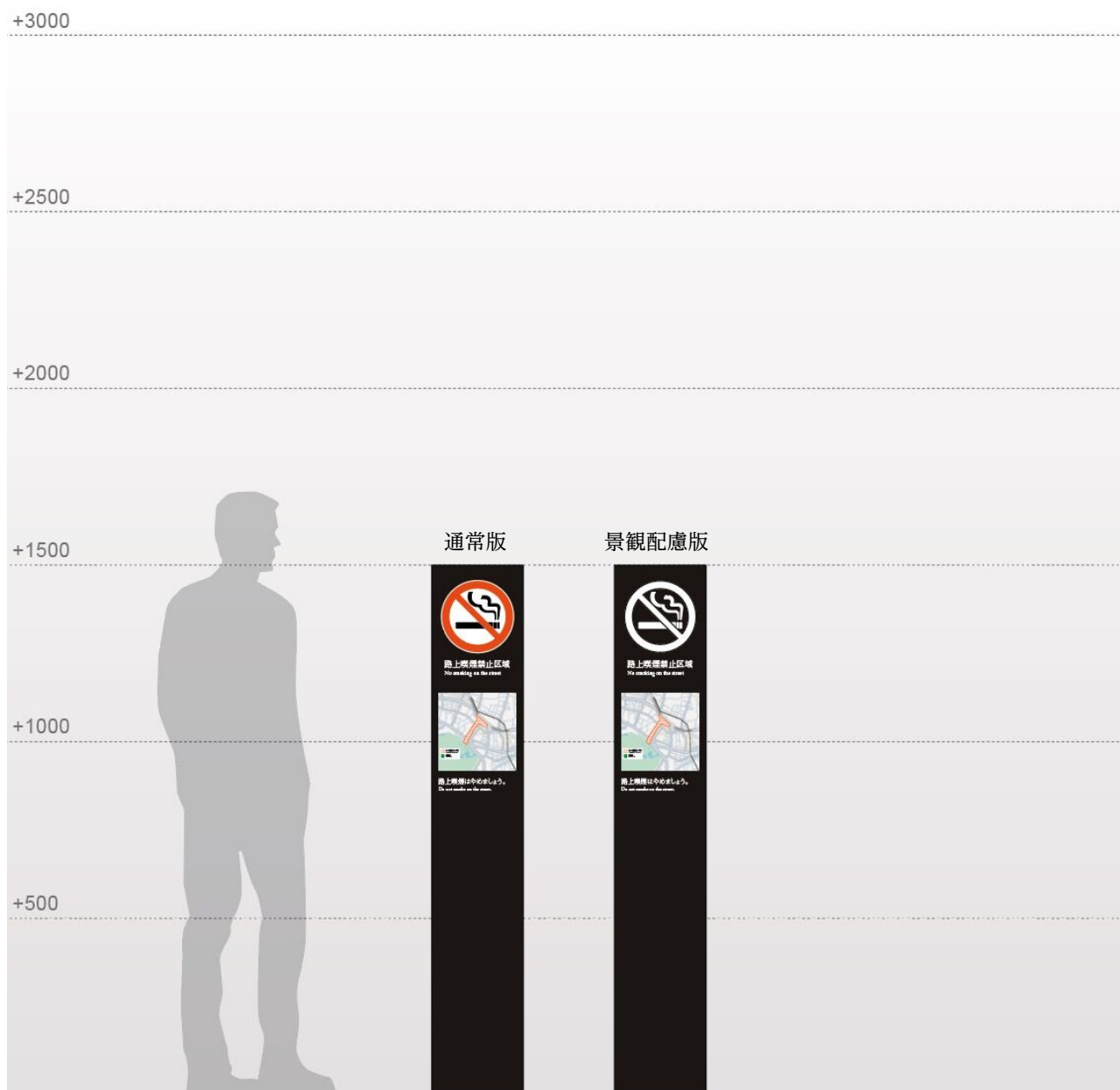
4. 規制・禁止サイン

自立型

仕様：

表示板：アルミ板加工インクジェット印刷シート

構造：鋼材 指定色焼付塗装



4. 規制・禁止サイン

壁面型

+3000

+2500

通常版



景観配慮版



+2000

+1500

仕様：

表示板：アルミt5インクジェット印刷

構造：金属フレーム 指定色焼付塗装

+1000



+500

5. 車両誘導サイン



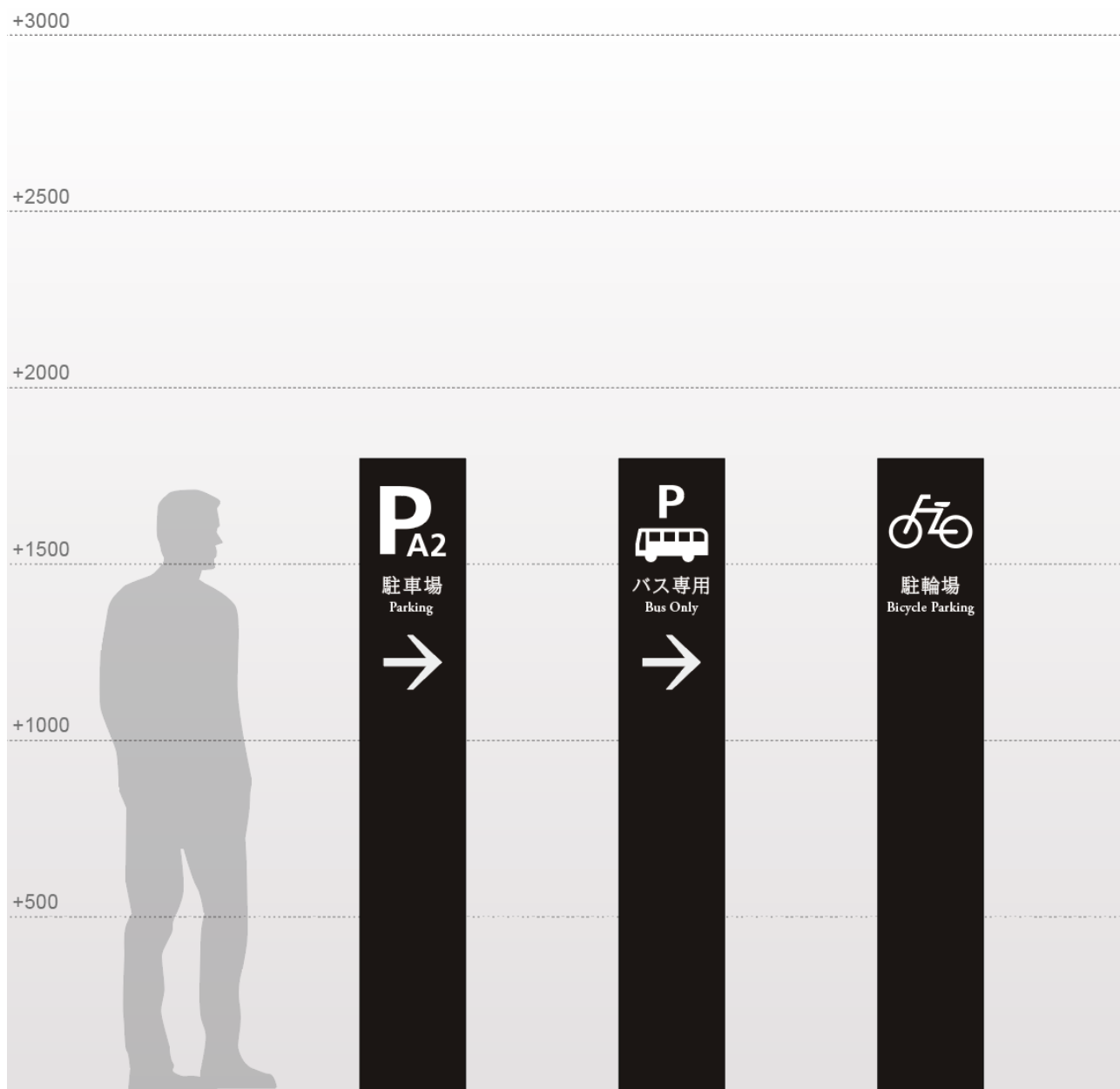
6. 駐車・駐輪場サイン

自立型

仕様：

表示板：アルミ板加工 シート切文字

構造：アルミ指定色焼付塗装



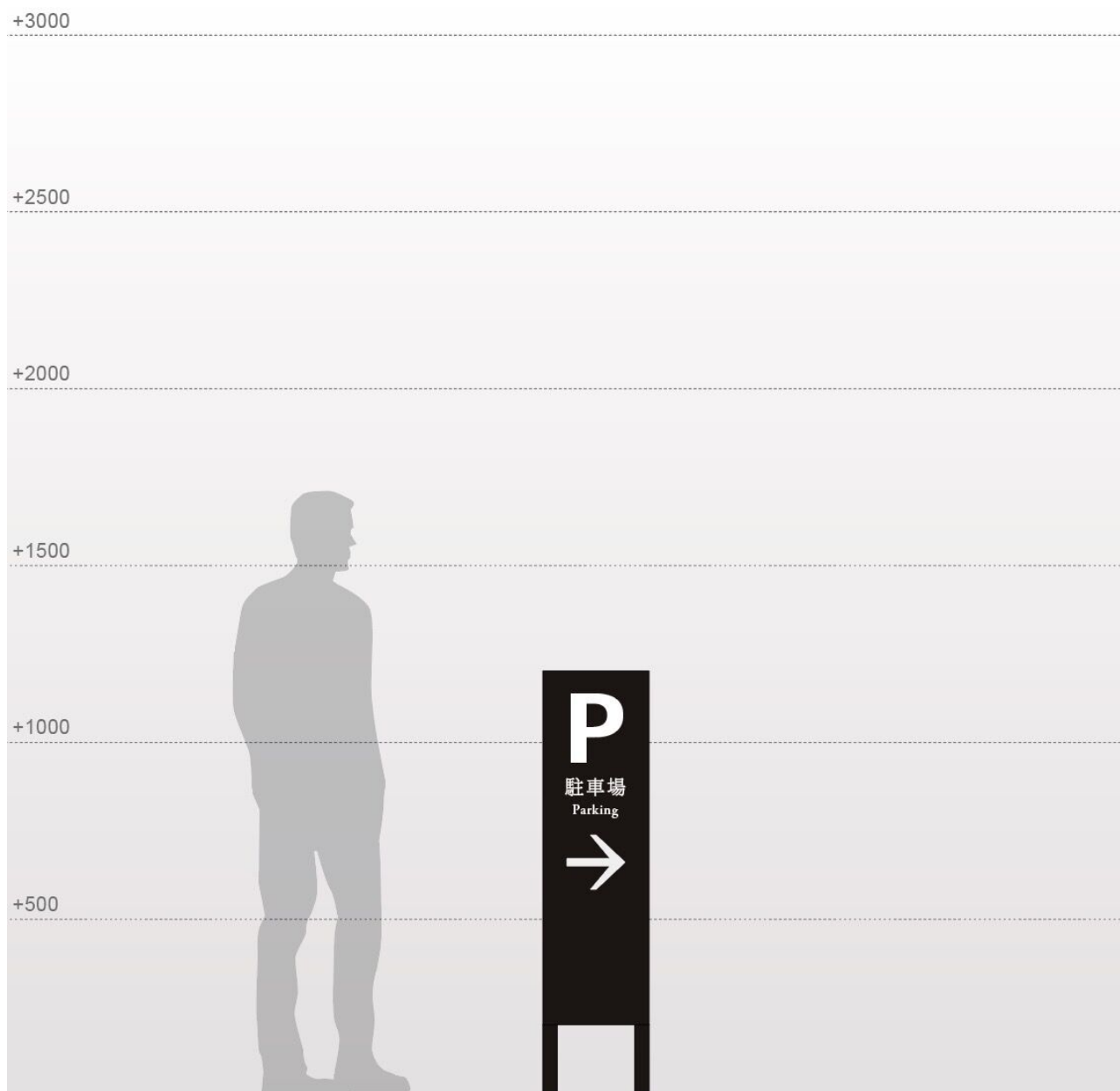
6. 駐車・駐輪場サイン

仮設型

仕様：

表示板：アルミ板加工 シート切文字

構造：アルミ指定色焼付塗装



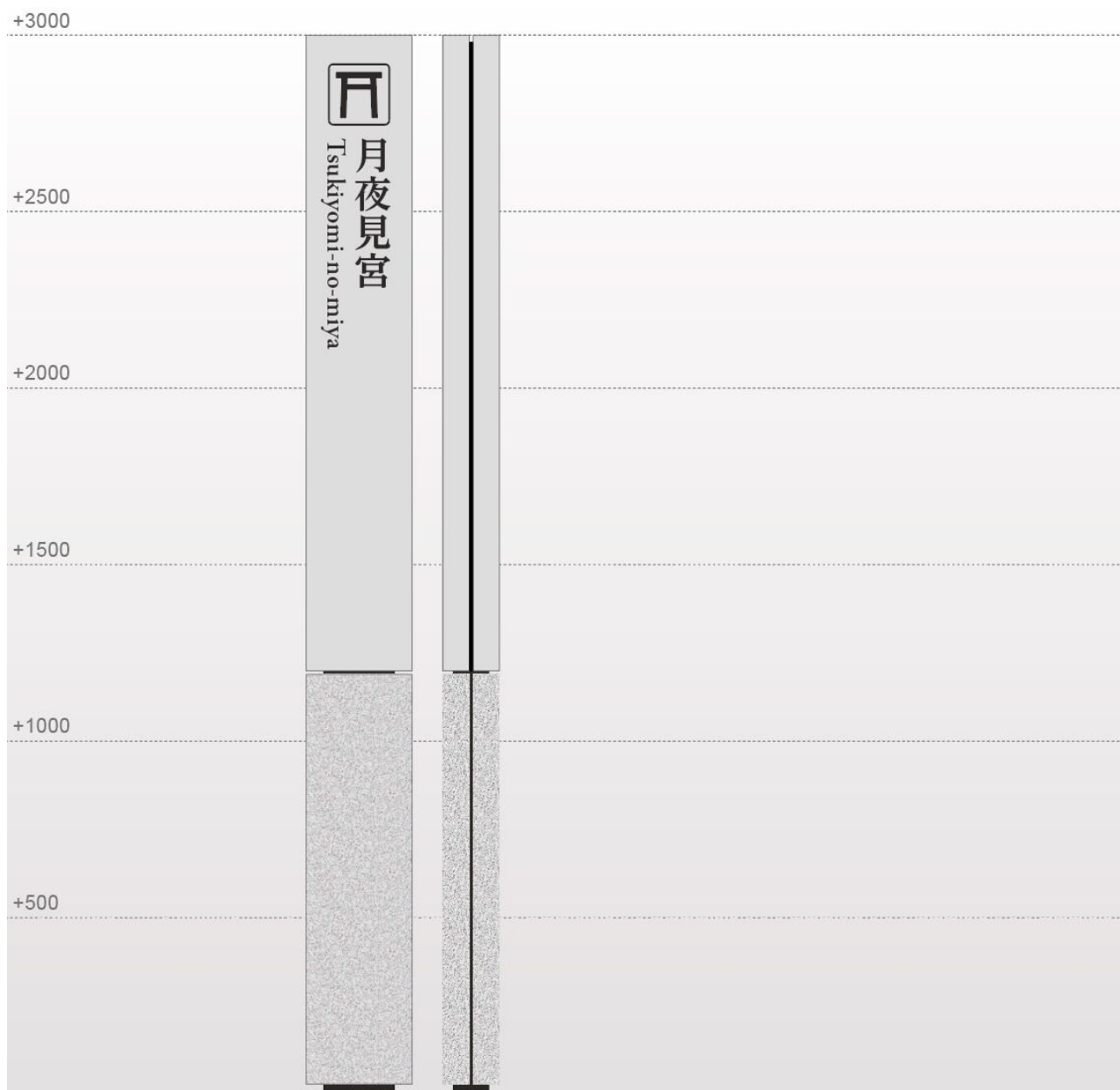
7. 施設名サイン

仕様

表示板：ステンレス板加工 シート切文字

基壇支柱カバー：支柱カバー：御影石ビシャン仕上げ

支柱：鋼材指定色焼付塗装



4-2 ピクトグラム一覧

1. JIS案内図記号 (2021年8月版)

公共・一般施設

								
案内 Information	案内所 Question & answer	病院 Hospital	救護所 First aid	警察 Police	お手洗 Toilets	男女共用 お手洗 All gender toilet	男性 Men	女性 Women
		 (備考) 火災予防条例で上記の図記号の使用が規定されている場所には、上記の図記号を使用する必要がある。						
飲料水 Drinking water	喫煙所 Smoking area		チェックイン / 受付 Check-in / Reception	忘れ物取扱所 Lost and found	ホテル / 宿泊施設 Hotel / Accommodation	きっぷうりば / 精算所 Tickets / Fare adjustment	手荷物一時預かり所 Baggage storage	コインロッカー Coin lockers
								
休憩所 / 待合室 Lounge / Waiting room	ミーティングポイント Meeting point	銀行・両替 Bank, money exchange	キャッシュサービス Cash service	海外発行カード対応ATM ATM for overseas cards	充電コーナー Charge point	郵便 Post	電話 Telephone	無線LAN Wireless LAN
								
ファックス Fax	カート Cart	エレベーター Elevator	エスカレーター Escalator	階段 Stairs	乳幼児用設備 Nursery	こどもお手洗 Children's toilet	おむつ交換台 Diaper changing table	ベビーチェア Baby chair
								
着替え台 Changing board	洋風便器 Sitting style toilet	和風便器 Squatting style toilet	温水洗浄便座 Spray seat	クローク Cloakroom	更衣室 Dressing room	更衣室 (女性) Dressing room (women)	シャワー Shower	浴室 Bath
								
水飲み場 Water fountain	礼拝室 Prayer room	くず入れ Trash box	リサイクル品回収施設 Collection facility for the recycling products	自動販売機 Vending machine				

交通施設



商業施設



観光・文化・スポーツ施設



展望地
/景勝地
View point



陸上競技場
Athletic
stadium



サッカー
競技場
Football
stadium



野球場
Baseball
stadium



テニスコート
Tennis court



海水浴場
/プール
Swimming
place



スキー場
Ski ground



キャンプ場
Camp site



温泉
Hot spring



イヤホンガイド
Audio guide



公園
Park



博物館
/美術館
Museum



歴史的建造物
Historical
monument



応用例 1
variant 1



応用例 2
variant 2



スポーツ活動
Sporting
activities



腰掛け式リフト
Chairlift

安全



消火器
Fire
extinguisher



非常電話
Emergency
telephone



非常ボタン
Emergency
call button



列車の非常
停止ボタン
Emergency
train stop
button



非常口
Emergency
exit
(備考)
消防法に基づく告知
平成11年3月17日
消防庁告示第2号



広域避難場所
Safety evacuation
area

禁止



一般禁止
General
prohibition



禁煙
No smoking



(備考)
火災予防条例で上記
の図記号の使用が規
定されている場所
には、上記の図記号を
使用する必要がある。



火気厳禁
No open
flame



進入禁止
No entry



駐車禁止
No parking



自転車乗り
入れ禁止
No bicycles



立入禁止
No admittance



走るな/
かけ込み禁止
Do not rush



ホームドア：
たてかけない
Do not lean objects
on the platform door



ホームドア：
乗り出さない
Do not lean over
the platform door



さわるな
Do not
touch



捨てるな
Do not
throw rubbish



飲めない
Not drinking
water



携帯電話
使用禁止
Do not use
mobile phones



電子機器
使用禁止
Do not use
electronic
devices



撮影禁止
Do not take
photographs



フラッシュ
撮影禁止
Do not
take flash
photographs



着席禁止
Do not sit
here



ベビーカー
使用禁止
Do not use
prams /
strollers



遊泳禁止
No swimming



キャンプ禁止
No camping



飲食禁止
Do not eat or
drink here



ペット持ち込み禁止
No uncaged animals

注意



一般注意
General
caution



障害物注意
Caution,
obstacles



上り段差注意
Caution,
uneven access
/ up



下り段差注意
Caution,
uneven access
/ down



滑面注意
Caution,
slippery
surface



転落注意
Caution,
drop



天井に注意
Caution,
overhead

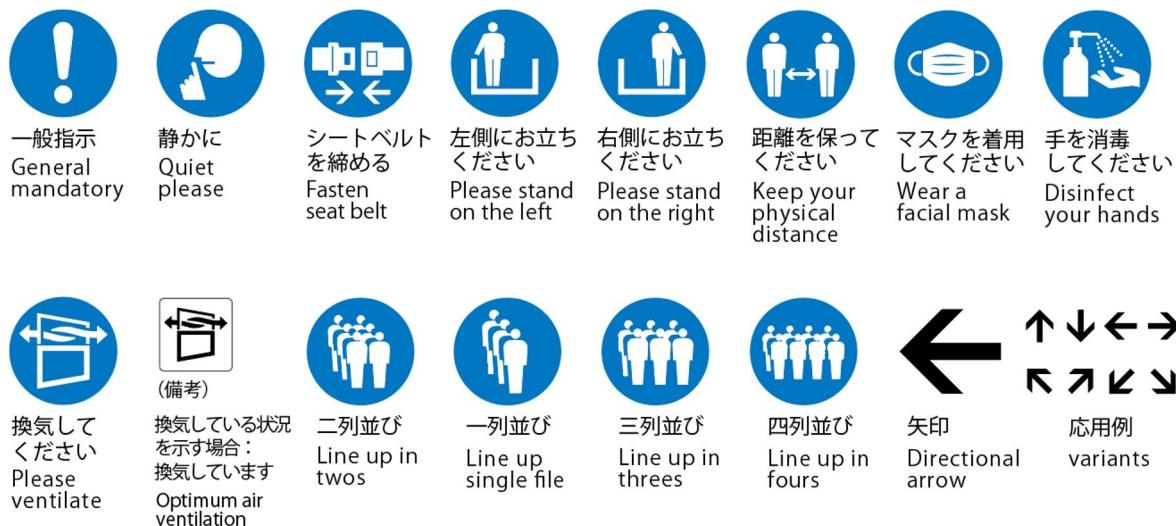


ホームドア：
手を挟まないよう
注意
Caution, closing
doors



感電注意
Caution,
electricity

指示



アクセシビリティ

